

## 4 施策別事業計画の点検及び評価

### 施策 1 - 1 だれもが個性と能力に応じて活躍できる地域社会の形成

事務事業名 (所属)	目的	H20 年度の取り組み実績及び成果	評価及び課題
人権教育の推進 (生涯学習部生涯 学習課)	<p>すべての人々の人権が真に尊重される社会の実現をめざし、人権に関する学習の機会の充実を図る。</p> <p>人権に関する学習を単に知識として学ぶだけでなく、日常生活において態度や行動に現れるような人権感覚を身につける。</p> <p>【具体的施策】</p> <p>(1)すべての教育活動の原点である家庭教育への支援の充実を図る</p> <p>(2)公民館等の社会教育施設を中心とした学習機会の充実を図る</p> <p>(3)参加体験型の研修会の提供等、学習プログラムの開発に努める</p> <p>(4)指導者の養成及び資質の向上等、推進体制の充実を図る</p>	<p>人権教育講座 現代的課題講座 講座回数：延べ約300回 受講者数：延べ約4,300名</p> <p>人権問題課題別講座 人権フォーラム“人・まちふれあい講演会” 「行列のできる講座とチラシの作り方」 受講者数：80名</p> <p>「人権教育指導者研修」文部科学省委託事業：「人権教育推進のための調査研究事業」 全5回 受講者延べ74名</p>	<p>公民館講座を通じ、男女平等観の形成促進や、外国人に対する偏見や差別意識を解消し、市民一人ひとりの国際認識と地域文化の国際性を高めることができたことなど、市民へ人権感覚の醸成を図ることができた。</p> <p>人権教育指導者養成講座を通じ、公民館事務職員が人権教育についての学習プログラムにいかに関与的に取り組むことができるかについて、学習者の視点やニーズ、地域の現状から見取る講座の組み立て方など、意識変容を図ることができた。</p> <p>参加型学習の手法を活用した多様な人権教育の講座を企画、実践し、市民へ提供していく必要がある。</p>

### 施策 1 - 2 子どもたちの確かな人間力を育成する学校教育の充実

事務事業名 (所属)	目的	H20 年度の取り組み実績及び成果	評価及び課題
教育交流事業 (学校教育部教育)	東広島市と友好都市である中国四川省徳陽市と教育文化の交流を行い、互いの友	北海道北広島市教育交流 北海道北広島市へ「子ども大使」として児童	北海道北広島市との交流では、派遣・受入れ後にも各学校同士でメッセージを交換しあうなどの

<p>総務課)</p>	<p>好・親善を深め、児童生徒の国際的視野を広める。 姉妹都市である北海道北広島市の小中学校と相互に児童生徒を派遣し、交流することにより、両市の教育の発展と児童生徒の視野の拡大や友好の精神を培う。</p>	<p>18名(引率3名)を派遣、また北広島市から児童10名(引率3名)を受入れた。受入れでは、東広島市の郷土料理の調理体験や試食、神楽鑑賞、交流校を訪れて全校集会や交流会に参加するなどの交流を行った。 東広島市・北広島市スポーツ交流 生徒13名を北海道北広島市へ派遣し、バレーボールの交流試合を行った。 中国四川省徳陽市教育交流 中国四川省徳陽市から児童・生徒10名(引率2名)を受入れ、交流を行う予定だったが、四川省大地震の影響で平成21年度へ延期となった。市内の交流校では、児童生徒が折り鶴やお見舞いのメッセージを作成し、徳陽市の交流校へ送付した。</p>	<p>交流が続いており、互いの友好・親善を深めるといって、効果を挙げている。 一方、東広島市・北広島市スポーツ交流について、全ての中学校でクラブ活動として行っている競技が少ないため、今後の交流の進め方について検討しているところである。</p>
<p>私立高等学校への助成 (学校教育部教育総務課)</p>	<p>市内私立高等学校生徒の保護者の経済的負担軽減し、また教育環境の向上を図るため、教材・教具、教育環境の整備に補助を行う。</p>	<p>近畿大学附属東広島高等学校 金額：1,346,000円 用途：教育研究経費(材料用品費として理科実験器具・入学式用紙等購入) 武田高等学校 金額：1,046,000円 用途：教育研究経費(備品費として地デジ対応テレビ・DVD・教室本棚購入) 生徒一人当たり2,000円 それぞれ、教育のため、有効に活用した。また、活用中である。</p>	<p>補助金を、生徒の学習、クラブ活動などに必要な、備品・消耗品の購入に充当することにより、教育の充実に寄与しており、今後も継続していく。</p>

<p>スクールバス運行 ( 学校教育部学事課 )</p>	<p>小・中学校から遠距離にある児童生徒に対し、スクールバスを運行し、通学の確保及び通学時の安全を図る</p>	<p>小学校 豊栄( 4 系統 )、河内西( 2 系統 )、入野、中黒瀬小学校にて、スクールバスを運行した。 中学校 河内中学校で、スクールバスを運行した。</p>	<p>事故なく、スクールバスが運行されており、遠距離通学児童生徒の通学上の安全が確保されている。 一方、今後、小学校の統合が計画されており、スクールバスの運行のあり方の検討が必要である。</p>
<p>通学補助 ( 学校教育部学事課 )</p>	<p>小・中学校から遠距離にある児童生徒のうち、公共交通機関等を利用して登校する児童生徒に対し、通学費の一部を補助し、また自転車通学する生徒に対しヘルメット購入代の一部を補助することにより、保護者の負担軽減を図る。</p>	<p>(1)通学補助 小学校：久芳(20人)、川上(20人)、三ツ城(5人)、中黒瀬小学校(34人)で実施した。 中学校：高屋中学校で実施した。(63人) (2)市内中学校において、自転車通学をしている生徒に対し、ヘルメット購入の補助を行った。(1,140人)</p>	<p>遠距離通学者、自転車通学生徒において、通学にかかる費用の保護者の負担軽減につながっている点で効果がある。 今後、小学校の統合が計画されており、スクールバスの運行とあわせ市内統一的な補助のあり方に対する検討が必要である。</p>
<p>私立幼稚園協議会への助成 ( 学校教育部学事課 )</p>	<p>私立幼稚園の円滑な運営と教育の充実を図るため、私立幼稚園協議会に対し、助成を行う。</p>	<p>私立幼稚園協議会(11園)に対し助成を行った。</p>	<p>各私立幼稚園の施設維持や教材の充実等により、本市の幼児教育の質の確保・向上に一定の成果をあげている。 今後も、幼稚園の円滑な運営と教育の充実を図るため、継続的に実施する。</p>
<p>学校教育推進事業 ( 学校教育部指導課 )</p>	<p>新学校教育レベルアッププランの趣旨を踏まえ、市内の幼稚園、小中学校の学校力と教師力を向上させるとともに、園児や児童生徒の人間力の育成を図る。</p>	<p>1 教職員の指導力向上 (1)校内研修の充実 ・各校の教育研究テーマに沿って講師及び指導主事を派遣 (2)教育研究推進校の指定 ・市教育推進指定校 6校 ・国、県等教育推進指定校 7校 (3)教職員の指導力向上のための各種研修会の</p>	<p>「全国学力・学習状況調査」によれば、市内小中学校ともに、全国・広島県の平均正答率よりも高く、「概ね良好な結果」であると言える。さらに基礎・基本をしっかりと習得させ、教職員の指導力向上を図る中で思考力・判断力・表現力をさらに高めていく必要がある。 「基礎・基本定着状況調査」によれば、市内小中学校とも、広島県の通過率を上回り、各教科</p>

		<p>実施  全教職員研修会、管理職研修会（校長部会、教頭部会）、指導力向上夏期連続セミナー、学校ニューリーダー研修会（主幹、教務主任、研究主任を対象）、特別支援学級担当者会、日本語指導担当者研修会、司書教諭等研修会、情報教育担当者会 等</p> <p>(4)新学校教育レベルアッププラン推進委員会  ・平成 20 年度の進捗状況进行评估</p> <p>2 学力向上と特色ある学校づくりの推進</p> <p>(1)学力調査の実施・・・児童生徒の学習状況を把握し指導に活かす。  ・全国学力・学習状況調査、基礎・基本定着状況調査、N R T 学力調査</p> <p>(2)特色ある学校づくりのための教育内容の充実  ・キャリア教育の推進（職場体験学習の実施等）、小中学校音楽発表会の開催、社会科副読本の作成等  ・外部人材の活用（地域住民や学生が学校に出向き、授業やクラブ活動などの児童生徒の活動を支援する。）</p> <p>マイタウンティーチャー：年間 1,547 回、学生マイタウンティーチャー：年間 396 回</p>	<p>とも 70% を超えており、「良好な結果」であると言える。</p> <p>本市の学校教育を推進する上での指針となっている新・学校教育レベルアッププランを、国や県の動向等も踏まえ、本市の特徴である不易の部分を大切にしながら子どもたちの「生きる力」をいかに育成していくかを視点に、改定していく。</p> <p>本市の児童生徒が将来の夢や目標を持っている割合は、国や県よりも高い数値を示しているが、さらに高めていくために特色ある学校づくりの充実に努める。</p>
--	--	---	---

<p>学校の元気応援事業 (学校教育部指導課)</p>	<p>新学校教育レベルアッププランに、市内幼稚園、小学校、中学校の学校力と教師力の加速推進を図るため、学校の元気応援につながる事業を継続して実施することにより、県のリーディングエリアから日本のフロントランナーへと学校教育水準の向上を図る。</p>	<p>1 学校の魅力アップ事業 「魅力ある学校図書館づくり」、「食教育の推進」、「環境の整った美しい学校づくり」、「伝統文化の継承」の4つのメニューで33校が取り組み、特色ある学校づくりとさらにやる気のある学校づくりを推進することができた。</p> <p>2 全国へ東広島文化発信 小学生が音楽等文化活動で全国大会出場する場合の旅費等を支援(中国大会50%、全国大会75%補助)する。平成20年度は中黒瀬小学校マーチングバンド(中国大会、全国大会出場)、寺西小学校合唱部(中国大会出場)への支援を行った。</p> <p>3 マスター講師ワイド活用 優れた専門性を持つ退職教員を非常勤講師に任用し、学校に派遣することで教育活動向上につなげる。 5名のマスター講師を任用し、学校長の課題に対する的確な指導や教員の指導力向上を図ることができた。</p> <p>4 学校教育支援員配置事業 教員を補助できる非常勤講師を44名配置(特別支援教育対応29名、新学習指導要領対応2名、生徒指導対応13名)。 教員の児童生徒と関わる時間が確保され、これまで以上にきめ細かな対応ができるように</p>	<p>様々な教育課題がある中で、特色ある学校づくり、教科指導、生徒指導、特別支援などの面で、取り組みの活性化や教職員の意欲の向上につながったとの報告があるなど、新規事業として一定の成果をあげることができた。</p> <p>「学校の魅力アップ事業」の取組みで、木谷小学校が読書活動優秀実践校文部大臣表彰を受け、豊栄中、松賀中学校が全日本学校関係緑化コンクールで、それぞれ準特選、入選した。</p> <p>「学校教育支援員配置事業」は、「学校の教員が児童生徒とかかわる時間が確保され、これまで以上に児童生徒へのきめ細やかな対応が可能となった」と、学校から肯定的な評価が聞かれ、来年度以降も継続して配置してほしいなどの強い要望が出された。</p> <p>平成20年度からの新規事業であるが、本市の学校教育を全国レベルに引き上げるために欠かれない事業となっている。特に、平成21年度は学校教育支援員の減額等により学校からの希望に添えない状況が出てきているため、この効率的な活用が課題となっている。</p>
---------------------------------	---	---	--

		<p>なった。</p> <p>5 新教育課程プログラム</p> <p>新学習指導要領に示された「活用力」向上のためのプログラムを事業化する。</p> <p>プロジェクト会議の開催、先進地視察、開発指定校や課題校への重点支援を行い、その成果を市内の各学校に広めることができた。</p>	
<p>英語教育推進 ( 学校教育部指導課 )</p>	<p>JET プログラムの ALT( 外国語指導助手 ) 及び英語が堪能な地域人材等を小中学校に派遣することにより、小学校の外国語活動の推進や中学校の実践的な英語指導を実施する。</p>	<p>1 JET プログラムの ALT ( 6 名 )</p> <p>( 1 ) ALT の派遣</p> <p>全中学校、合併町、志和町及び高屋町 ( 高屋西・高美が丘 ) の小学校に ALT を派遣した。 ( ALT との授業 : 中学校は月 2 回、小学校は月 1 回程度 )</p> <p>( 2 ) ALT の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員研修会の講師等。( 7 回 )</li> <li>・「教師のための英会話レッスン」の講師として小学校 24 校に派遣。</li> <li>・中学校英語暗唱大会の審査員。</li> </ul> <p>( 3 ) ALT の指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事が ALT の授業観察を年間 2～3 回行い、チーム・ティーチングについて指導をした。また、各学校から ALT の勤務状況等を聞き、個別指導した。</li> <li>・県主催の ALT 研修会 ( 年 2 回 ) 広島県中学校英語教育研究大会及び日本語研修 ( 新 ALT のみ ) に参加をさせ、指導力向上に努めた。</li> </ul>	<p>「小学校外国語活動指導案集」や指導冊子を作成し配布することにより、教員への外国語活動の趣旨の徹底と中学校への円滑な接続を図ることができた。</p> <p>実践的な英語指導を行うことにより、生徒の英語に対する興味・関心が高まった。(「英語が好きな生徒」東広島市 62.7%・県平均 57.6%【「基礎・基本」定着状況調査】より)</p> <p>小学校教員と ALT が効果的なチーム・ティーチングを行うための研修が必要である。</p> <p>高学年の外国語活動を充実させるために、定期的に ALT や地域人材等の授業が受けられるように配置をする。</p>

		<p>2 英語が堪能な地域人材（22名） 市内の小中学校に英語が堪能な地域人材等を派遣した。</p> <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低中学年から高学年で使用する英語ノートへの接続及び小中連携に配慮した「小学校外国語活動年間指導計画を作成した。（高学年35時間、中学年20時間低学年10時間*低・中学年については、学校裁量の時間に実施。）</li> <li>・外国語活動の冊子を作成し、小学校全教職員と中学校担当者に配布し、市内小学校英語教育の推進に努めた。</li> </ul>	
<p>特別支援教育の充実 （学校教育部指導課）</p>	<p>幼稚園や小中学校の普通学級及び特別支援学級に在籍する発達障害のある幼児児童生徒の活動を支援する。</p> <p>各学校等で実施される買い物学習等、特別支援学級の教育内容の充実を図る。</p> <p>適正な就学指導を実施し、特別支援学級担当者及び特別支援コーディネーターの資質を向上させる。</p> <p>難聴の保護者に対して、手話通訳者や要約筆記者を派遣し、学校行事等における情報提供を行う。</p>	<p>1 特別支援学級等へ教育補助員の派遣（幼稚園6名、小学校51名、中学校23名）</p> <p>2 特別支援サポーター及び大学生による特別支援教育サポーターの派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育サポーター 4名（幼稚園3名、中学校1名）</li> <li>・学生特別支援サポーター43名（幼稚園1名、小学校36名、中学校6名）</li> </ul> <p>3 就学指導委員会の開催と対象幼児児童生徒についての教育相談</p> <p>4 専門家巡回相談員による巡回相談（40回）</p> <p>5 特別支援担当者及び特別支援教育コーディネーター研修会（年3回）</p> <p>6 特別支援学級における買い物学習等、社会</p>	<p>発達障害のある幼児児童生徒へ教育的支援等を行うため、必要な学級へ人的措置を一定期間行うことにより、自立に向けて一定の成果を上げることができた。</p> <p>コーディネーター研修や巡回相談により、教員の幼児児童生徒理解が深まり関わり方についての専門性が高まった。また幼児児童生徒も学習面での伸びや生活面での落ち着きなど変容が見られた。</p> <p>買い物学習では、買い物物の体験や多くの人との交流により、実生活に即した学習を展開することができ効果的であった。</p> <p>巡回相談の取組みを充実させるとともに、就学指導について保育所・幼稚園との連携をさらに</p>

		<p>参加に向けた取り組みへの支援</p> <p>7 対象となる保護者のいる学校の行事に際し、手話通訳・要約筆記者の派遣（210名）</p>	<p>深めていく必要がある。</p> <p>特別支援学級の指導者の専門性をさらに高める研修等を実施することにより、指導力の向上を図る。</p>
<p>心の教育推進 （学校教育部指導課）</p>	<p>家庭の教育力の低下や地域コミュニティの希薄化等、学校教育を取り巻く環境は困難さを増している。そこで、子供たちの規範意識を醸成し、郷土に誇りをもち東広島市の将来を担う力を育むために、学校内外において「心の教育」を充実させる。また、教職員に対しては、困難さを増す教育条件の下で、地域・保護者からの信頼を得る教育を実践していくために、しなやかな感性と強い耐性を身につける「心の教育」を推進する。</p>	<p>1 地域・保護者を対象とした「心の教育」講演会の実施</p> <p>全市的な講演会や学校区でのミニ講演会を開催した。</p> <p>2 教員を対象とした「心の教育」連続講座の実施</p> <p>5回の連続講座を「教師力養成・心を鍛える連続講座」として、退職教員が中心となって結成された東広島こころ塾に企画・運営など委託して実施した。（講座のテーマ：「人間としての生き方を考える」 参加者：のべ144名）</p>	<p>「心の教育」講演会では、地域・保護者を対象とし、人の営みや伝統文化、自然や国を愛する心等に係る内容で実施した。参加した地域・保護者の方々の心に直接働きかけるものであった。</p> <p>「心の教育」連続講座に参加した教員からは、「教師である前に人間としての生き方を学ぶことができ、今後の教育活動推進への大きなヒントを得ることができた。」など良い評価が多く寄せられた。</p> <p>「心の教育」連続講座は、学校行事や部活動等で都合がつかず参加できない者がいた。より多くの教員が参加しやすい日程を検討していく必要がある。</p>
<p>学校体育の充実 （学校教育部指導課）</p>	<p>体育・保健体育科教育、部活動及び指導者講習会等を充実させ、市内小中学生の体力・運動能力向上及び食育の推進を図る。特に推進校においては、モデル的な取り組みを実施させ、先進的な事例を市内全域に広める。また、各種研修会及び研究大会を開催し、指導技術の向上を図るとともに、児童生徒の技能及び運動意欲を高める。また、新体力テストを実</p>	<p>1 体力運動能力向上・食育推進校の指定</p> <p>(1)体力運動能力向上推進校 2校</p> <p>研究公開で、体力・運動能力向上の具体的な内容を公開した。</p> <p>(2)食育推進校 2校</p> <p>食育講演会や研究公開を実施した。</p> <p>2 新体力テスト実施及び集計</p> <p>市内全小中学校で実施し、記録を分析。全市</p>	<p>本市の児童生徒は、全国・広島県の体力合計点よりも高く、体力面で「良好な状況」にある。特に、中学校は、男女共に全国1位の千葉県よりも高い。しかしながら、「投力」が全国平均並みであるため、その向上が今後の課題である。新体力テストの分析結果から本市平均値は、小学校において全96種目中80種目（83.3%）が全国平均値と同じか上回っており、昨年度より</p>



<p>施し、児童生徒一人一人の体力・運動能力の実態を明らかにして、向上のための手立てを講ずる。</p> <p>小体連・中体連事業へ補助を行うことにより、保護者の負担を軽減を図るとともに、運動技能を試したり高めたりする機会を増やす。</p>	<p>の分析結果を市HPで公表した。</p> <p>3 水泳・陸上記録会の開催 水泳記録会（参加 533 名）陸上記録会（参加 660 名）を開催。</p> <p>4 水泳指導者実技講習会並びに陸上教室の開催 水泳指導者講習会（参加 30 名）陸上教室（参加 200 名）を開催。</p> <p>5 食育フェアの開催 生涯学習フェスティバルの中で、市民に食育の啓発を図る。食育フェアを開催（参加者：約 300 名）</p> <p>6 プール薬品配布及び安芸津 B &amp; G プールバス輸送（大田小・小松原小対象） 各学校にプール薬品を配布し、水質管理の徹底に努めた。また、安芸津 B &amp; G プールへの大田小・小松原小の児童輸送を安全に行う。（合計 17 回）</p> <p>7 中学校体育連盟及び小学生体育連盟への補助金・負担金の交付</p> <p>8 中学校教員武道実技指導研修会の開催 東京女子体育大学教授本村清人氏を講師に招聘し、市内中学校保健体育科教員を対象に講義及び実技指導を実施。（23 名参加）</p>	<p>も 17.7 ポイント向上した。また、中学校は、全 54 種目中 49 種目（90.7%）が全国平均値を上回った。</p> <p>全国学力調査及び基礎・基本定着状況調査の結果から、全国や県と比較して、朝食を食べる児童生徒の割合が上回った。</p> <p>運動部活動では、西条中学校の男子と八本松中学校の女子が全国中学校駅伝に出場するなど全国レベルで活躍した。</p> <p>指定校には、新学習指導要領の完全実施を踏まえ、先進的な取組みの充実を図るよう今後も引き続き指導を行う。また、中学校新学習指導要領の武道必修化に伴う備品等の整備が急がれる。</p> <p>&lt;&lt; グラフ &gt;&gt;</p>
---	--	--

<p>和文化教育全国大会補助 (学校教育部指導課)</p>	<p>改正教育基本法において、伝統と文化に関する教育の推進が掲げられた。伝統・文化を含めた和文化教育の取組みが全国各地で行われる中で、本市で第4回和文化教育全国大会を開催することにより、本市も含めて全国各地の先進事例を通して、これから求められる伝統と文化に関する教育のあり方や和文化教育の全体像を明らかにしていく。</p>	<p>1 主題 「わかちあおう、文化と伝統。かたりあおう、東広島で」～見つけよう 伝統と文化のすばらしさを 受け継ごう 伝統と文化の大切さを 創ろう わたしたちの新しい文化を～</p> <p>2 主催 和文化教育研究交流協会・和文化教育第4回全国大会東広島大会実行委員会</p> <p>3 日時 10月24日(金) 25日(土)</p> <p>4 場所 東広島運動公園体育館</p> <p>5 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アトラクション：筑前琵琶(上原まり)、オペラ「白壁の街」(西条小学校)、組曲「西條」(西条中学校)</li> <li>・公開授業：市伝統文化教育推進校発表(向陽中、志和中、原小、河内小学校)</li> <li>・講演：兵庫教育大学学長 梶田勲一、茶道上田宗箇流家元 上田宗岡</li> </ul> <p>6 参加者 5,240人(1日目2,635人、2日目2,605人)</p> <p>伝統文化教育推進校がその取組みを全国に発信した。また、平成20年度から市内全幼稚園、小中学校で「一校一和文化学習」に取組み、パネル展示で発表した。</p> <p>マスコミ等にも大きく取り上げられ、県内はもとより全国に和文化学習の重要性を広めることができた。</p>	<p>公開授業やポスターセッションでの発表、アトラクションでの西条小学校のオペラ「白壁の街」・西条中学校の組曲「西條」の発表や「一校一和文化学習」の展示に対し、県内外の参加者から高い評価を受けるとともに、これまでの和文化教育の取組みを広く全国に発信する機会となった。</p> <p>この大会を契機として、市内全ての幼稚園、小中学校で子どもたちが日本の文化、東広島市や地域の歴史や文化を改めて見直し、日本や地域の伝統文化を大切にする教育の取組みが推進されるようになった。</p> <p>開催にあたっては、市内の教育関係団体(東広島市PTA連合会、東広島こころ塾、青少年育成東広島市民会議)の協力も得ることができたなど、学校・地域が一体となった取組みを進めることができた。</p> <p>新学習指導要領の移行期間中に年間指導計画等を作成し、各教科等で伝統や文化に関する教育の充実を図っていきたい。さらに、地域の理解や支援を受けながら、「東広島市の地域・文化を知り誇りを持ち、語れる子どもの育成」を目標に、今後も継続した和文化教育に取組みたい。</p>
-----------------------------------	---	---	---

### 施策 1 - 3 時代に対応した教育環境の整備・充実

事務事業名 (所属)	目的	H20年度の取り組み実績及び成果	評価及び課題
学校新設 (学校教育部教育 総務課)	西条中学校は、開発等の進展により生徒が増加傾向にあり、これまで仮設教室の設置により対応してきたが、今後もこの傾向が続くことが予測されることから、中学校の分離新設を行い、生徒の教育環境の向上を推進することを目的とする。	用地測量・設計、用地購入、造成設計 校舎等基本設計 アクセス道路設計・用地購入	平成23年4月開校を目指し、計画通り各事業を実施した。 造成、建築工事の工程調整による工期短縮が必要である。
小中学校大規模改造 (学校教育部教育 総務課)	学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす活動の場であり、非常災害時には地域住民の応急的な避難場所としての役割を果たすことから、施設の耐震化を進めるとともに経年による損耗、機能低下の復旧措置を図る。	(1)小学校 耐震診断 11棟 耐震補強・大規模改造設計 4棟 三津小学校屋内運動場、高屋西小学校校舎、原小学校校舎(配膳室)、造賀小学校校舎 (2)中学校 耐震補強・大規模改造設計 1棟 安芸津中学校校舎 <小・中学校耐震化率> 平成20年4月1日現在 71.8% 平成21年4月1日現在 73.4%	小学校の耐震診断をほぼ完了し診断結果の公表など安全・安心な学校づくりへの情報提供を実施した。 また、診断結果による耐震性の低い施設について早期耐震化を目指し耐震補強設計に着手するなど耐震化を進めている。 一方学校施設の耐震化には相当期間の設計業務と多額の工事費が必要となる。
小中学校増改築 (学校教育部教育 総務課)	近年の児童増加に伴う、敷地の狭あい、教室の不足を解消する、また耐震性が無く老朽化した危険な施設を改善するため、敷地の拡張、校舎、屋内運動場の増改築により学校運営の円滑な実施を確保する。	(1)寺西小学校 用地購入(9月補正 債務負担行為) (2)寺西、三永小学校 増築設計	2校の児童増加に対応する校舎棟の増築設計を完了し、平成21年度工事を予定している。 現在仮設教室で運営中の学校について、児童推計の状況により校舎増築の検討が必要。

<p>小学校プール改築 (学校教育部教育総務課)</p>	<p>小学校のコンクリート製のプールは、経年によるプール本体及び付属設備の老朽化によりプール本体の漏水や、プール本体等のコンクリート部分の劣化により危険性がある箇所が見受けられる。この状況を改善し、児童に良好な教育環境を提供するため、プール本体及び便所等の付属設備を改築する。</p>	<p>高屋東小学校 S42年新築の鉄筋コンクリート製を改築</p>	<p>以前に比べ安全、衛生面に優れた施設とすることで適正な学校運営が可能となった。 昭和40年代のプールは施設面の老朽化が著しいため、毎年使用する前に安全、衛生面の応急的な対応が必要。</p>																								
<p>情報教育環境の充実 (学校教育部教育総務課)</p>	<p>高度情報化社会に向けて、これからの時代を生きる児童生徒の情報活用能力の育成やIT環境を活用した効果的な授業実現のため、情報教育環境を充実させるとともに、情報教育の一層の推進を図る事を目的とする。</p>	<p>校務用パソコンおよびPC教室のパソコンの入れ替えを行い、校務用パソコンについて目標(教員1人1台)を達成した。 また、パソコンのリースが終了したものについて更新を行った。 そのほかにモデル校を指定し、小学校1校(三ツ城小学校)、中学校1校(松賀中学校)へ電子黒板を試験導入した。平成21年度に効果等の検証を実施する。</p>	<p>平成20年度の整備により、すべての学校に目標としていた台数(校務用パソコン:教職員1人1台、教育用パソコン:小学校2人で1台、中学校1人1台)が整備されたことから情報教育環境の充実を図ることができた。 機器管理や情報管理の観点から将来的にはサーバを統合、集約することが必要であるが、地域により通信環境が異なるため、どのような形でサーバを統合していくのが望ましいか検討中である。</p>																								
<p>理科教育振興 (学校教育部教育総務課)</p>	<p>理科教育を通じて、科学的な知識・技能及び態度を習得させるとともに、創意工夫の態度を養い、合理的な日常生活が営める人間を育成するため理科教育の振興を図る。 「理科教育振興法」に基づき、必要とする備品の設置基準(品名、数量等)を定めた基準(理科設備台帳)により、整備率の低い学校、また研究会等を実施する学校から重点的に順次整備する。</p>	<p>小学校:5,711,139円 中学校:3,700,000円 配当校、詳細は次のとおり。</p> <table border="1" data-bbox="965 1023 1453 1418"> <thead> <tr> <th colspan="3">小学校</th> </tr> <tr> <th>校名</th> <th>理科</th> <th>算数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東志和</td> <td>392,130</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小谷</td> <td>0</td> <td>300,000</td> </tr> <tr> <td>高屋西</td> <td>0</td> <td>345,064</td> </tr> <tr> <td>東西条</td> <td>400,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乃美尾</td> <td>0</td> <td>297,287</td> </tr> <tr> <td>竹仁</td> <td>0</td> <td>400,000</td> </tr> </tbody> </table>	小学校			校名	理科	算数	東志和	392,130	0	小谷	0	300,000	高屋西	0	345,064	東西条	400,000		乃美尾	0	297,287	竹仁	0	400,000	<p>H20年度末において次のとおり整備率が向上した。引き続き、各校の状況等勘案の上、平成20年3月に改訂された新学習指導要領に基づき効率的・計画的な整備率向上に努める。 理科振興備品の整備率(現有金額/基準金額) 小学校:18.9%(前年度末18.3%) 中学校:17.9%(前年度末18.0%) 老朽化、破損等があったものについて廃棄したため、減っている。 数学振興備品の整備率(現有金額/基準金額)</p>
小学校																											
校名	理科	算数																									
東志和	392,130	0																									
小谷	0	300,000																									
高屋西	0	345,064																									
東西条	400,000																										
乃美尾	0	297,287																									
竹仁	0	400,000																									

		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>久芳</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: right;">455,999</td></tr> <tr><td>豊栄</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: right;">459,950</td></tr> <tr><td>河内</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: right;">399,000</td></tr> <tr><td>入野</td><td style="text-align: right;">339,115</td><td style="text-align: center;">0</td></tr> <tr><td>木谷</td><td style="text-align: right;">523,545</td><td style="text-align: center;">0</td></tr> <tr><td>三津</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: right;">403,051</td></tr> <tr><td>小松原</td><td style="text-align: right;">300,000</td><td style="text-align: center;">0</td></tr> <tr><td>大田</td><td style="text-align: right;">300,000</td><td style="text-align: right;">395,998</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">計</td><td style="text-align: right;">2,254,790</td><td style="text-align: right;">3,456,349</td></tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><th colspan="3">中学校</th></tr> <tr><th>校名</th><th>理科</th><th>数学</th></tr> <tr><td>志和</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: right;">909,075</td></tr> <tr><td>河内</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: right;">598,975</td></tr> <tr><td>高屋</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: right;">799,990</td></tr> <tr><td>松賀</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: right;">792,000</td></tr> <tr><td>八本松</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: right;">599,960</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">計</td><td style="text-align: center;">0</td><td style="text-align: right;">3,700,000</td></tr> </table>	久芳	0	455,999	豊栄	0	459,950	河内	0	399,000	入野	339,115	0	木谷	523,545	0	三津	0	403,051	小松原	300,000	0	大田	300,000	395,998	計	2,254,790	3,456,349	中学校			校名	理科	数学	志和	0	909,075	河内	0	598,975	高屋	0	799,990	松賀	0	792,000	八本松	0	599,960	計	0	3,700,000	<p>小学校：24.3%（前年度末 20.2%）、中学校：18.7%（前年度末 13.9%）</p>
久芳	0	455,999																																																				
豊栄	0	459,950																																																				
河内	0	399,000																																																				
入野	339,115	0																																																				
木谷	523,545	0																																																				
三津	0	403,051																																																				
小松原	300,000	0																																																				
大田	300,000	395,998																																																				
計	2,254,790	3,456,349																																																				
中学校																																																						
校名	理科	数学																																																				
志和	0	909,075																																																				
河内	0	598,975																																																				
高屋	0	799,990																																																				
松賀	0	792,000																																																				
八本松	0	599,960																																																				
計	0	3,700,000																																																				
東広島学校給食センター整備 （学校教育部学事課）	安心・安全・美味しい学校給食を提供するために、調理場の早急なドライシステム（床に水を落とさないことにより跳ね水による食品への二次汚染を防止する調理方式）化、児童・生徒の増加・減少への対応、合併への対応及び財政効率の一層の向上のため、市内の単独調理場を全て廃止し、衛生管理に配慮	<p>運営検討会議の開催 平成20年4月から運用開始まで、17回開催（週1回程度） 調理シミュレーションの実施 配送業務について 平成20年9月から、17の小・中学校に対し、約6,000食を配送</p>	<p>（評価） ドライシステム施設による衛生管理の徹底を図っている。 班長会議、当番会議及び班会議等を常時実施し、作業改善を行っている。 配送委託、各種設備の保守委託により、円滑な業務を行っている。</p>																																																			

	<p>した学校給食センターの整備・改修等を行う。</p>	<p>試食会、訪問指導等の実施  受配校に対し、試食会、給食訪問及び栄養指導等を27回実施  備品の購入について  配膳用食缶 ..... 39,899,300 円  食器 ..... 19,779,600 円  箸類 ..... 6,364,000 円  トレイ ..... 6,402,400 円  食器カゴ ..... 9,737,280 円 等  児童生徒及び保護者等への施設紹介及び食育に関する内容のVTR作成</p>	<p>(課題)  安心・安全・美味しい学校給食の提供が求められている。  平成11年の行財政活性化懇話会の行政改革に関する提言において、学校給食のセンター化及び調理業務の民間委託等についての提言がなされている。  平成8年度の「O-157」による食中毒の発生以来、従来より厳しい衛生管理が求められるようになり、ウエットシステム式からドライシステム式に計画的に変更していくことが求められている。</p>
<p>学校図書館蔵書・システム整備  (学校教育部指導課)</p>	<p>1 市内小中学校学校図書館の蔵書を充実させ、児童生徒の読書のニーズに応えたり、読書意欲を高めたりして、読書活動の充実を図る。  2 学校図書館教育の充実を図るために、読書活動推進員を中学校に配置し、学校図書館担当職員と連携して、学校図書館の運営を行う。  3 平成19年度に全小中学校に配備完了した学校図書館蔵書管理システムを中心とした資源共有化システムの運用、保守を目的に行う事業である。このシステムにより、学校図書館を効率的に活用する。</p>	<p>1 学校図書購入費を、児童生徒数や蔵書数などを考慮した傾斜配分で各中学校に配当した。  小学校：蔵書冊数 223,979 冊  標準冊数 283,080 冊  達成率 79.1%  中学校：蔵書冊数 101,490 冊  標準冊数 144,480 冊  達成率 70.2%  小中学校合計：蔵書冊数 325,469 冊  標準冊数 427,560 冊  達成率 76.1%  2 市内5中学校に読書活動推進員をモデル的に配置(1日4時間週5日間勤務)し、そ</p>	<p>図書標準冊数の達成率は、寄附分も含めて平成20年度で4.1%の伸びを示している。今後、達成率の低い学校をさらに支援していく必要がある。  読書活動推進員の配置は、読書環境の整備や読書活動の活性化において大変効果がある。研究会等においても、学校図書館運営について参加者から高い評価を得ている。しかし、勤務時間が短いため、教職員との連携や研修の時間が十分に確保できない状況にある。また、読書活動推進員が配置されていない中学校があるため、格差が生じないように、全中学校へ段階的に配置していきたい。  現在、「探調」システムを操作できる教職員が限</p>

		<p>の内1日程度、近隣小学校で勤務することとしている。</p> <p>読書活動推進員が、環境整備、ボランティアとの連携、児童生徒の読書活動及び学校図書館を活用した学習の支援や補助を行うことにより、児童生徒の読書活動への意欲が高まり、貸出冊数も確実に伸びている。</p> <p>3 学校図書館蔵書管理システム「探調」の操作を教職員が行えるように、研修会を実施している。</p> <p>システムにより、学校や児童生徒の実態に応じた選書を行うことができた。また、探調ヘルプデスク（保守委託業務）を活用することにより、適切に状況へ対応することができた。</p>	<p>られているため、研修会を毎年1回以上は開催し、複数の職員による学校図書館運営を展開できるようにする必要がある。</p>
--	--	---	--

#### 施策1-4 家庭・学校・地域が連携した青少年健全育成の推進

事務事業名 (所属)	目的	H20年度の取り組み実績及び成果	評価及び課題
成人を祝う会開催 (生涯学習部生涯学習課)	20歳を迎えた新成人の前途を祝するとともに、成人として自らが社会を構成する一員であるという自覚を促し、社会から望まれる人間として成長していく機会を設ける。	<p>日時 平成21年1月12日(祝)11時～</p> <p>場所 東広島運動公園体育館</p> <p>記念講演 JOC 常務理事、北京オリンピック日本選手団副団長、市原 則之氏</p> <p>出席状況 対象者数：2,622人 出席者数：1,529人 出席率：58.3%</p>	<p>新成人が20歳を迎えたことを意識できる大切な場であり、それを市として祝うことは意義深いものがあり、出席率も広島大学や広島国際大学などの市外からの学生を除けば、高い割合を維持している。</p> <p>ただ、成人式におけるマナーや態度が大人として相応しくない新成人がいることでその対応に苦</p>

		<p>成果 各中学校から1人ずつ新成人を推薦してもらい、成人を祝う会検討委員会を年2回開催した。記念品の決定、成人代表の誓いの言葉や記念品受取など当日の運営にもご協力いただいた。</p>	<p>慮している。 (平成20年度は、数人の集団が妨害行為を行ったため、会場外へ退去させた。)</p>
<p>児童青少年相談 (生涯学習部青少年育成課)</p>	<p>児童青少年センターの児童青少年総合相談室で、保護者や児童生徒の悩みに応えるため、各種相談を行う。また、青少年健全育成のための補導指導活動・巡視活動を行う。</p>	<p>(1)教育相談(教育相談員6名) いじめ、不登校などの教育一般に係る相談活動にあたった。相談件数は年間230件。</p> <p>(2)巡回教育相談(教育相談員5名) 月1回の教育相談にあたった。</p> <p>(3)カウンセラー(臨床心理士)による相談 いじめ、不登校などの事案のうち、特に心理的アプローチの必要な相談にあたった。 相談件数は年間239件。</p> <p>(4)子育て相談 児童厚生員が、育児不安、保護者に悩みなどについての相談活動にあたった。 相談件数、年間1,127件(プレイルームに来所した保護者への声かけも含む)</p> <p>(5)補導指導員による巡視活動 補導指導員(10名)が、青少年がたむろしそうな場所及び市内を巡回し、実態把握を行い、該当少年への声かけを行った。 年間巡視時間数は、2,743時間。毎月第1火曜日に、連絡協議会。</p>	<p>核家族化が進む中、周りに子育てや家庭教育等についての悩みや不安を相談できる人が少なくなり、相談できる人を知らないという状況も生まれてきているなか、教育相談員、カウンセラー、児童厚生員が幼児・児童・青少年、保護者及び一般市民までの様々な相談を受けており、市民のニーズに応えることができている。また、補導指導員の巡視活動により、非行少年グループの大きな組織化は防止できている。</p> <p>そのような中で、スクールカウンセラー、メンタルアドバイザー、心の教育総合アドバイザー、フレンドスペース指導員相互の連携はケースバイケースで行っているが、教育相談員との連携はほとんどなされておらず、そのシステム化が図られていない。不登校サポートセンターを拠点に、連携システムを構築していきたい。また、閉館の月曜日や、仕事を終えた後の時間での相談希望があるので、その対応を検討している。</p>



<p>青少年健全育成 (生涯学習部青少年育成課)</p>	<p>青少年のボランティアグループを組織し、自主的行事・講座を企画、運営する機会を作り自主性、主体性を育てる。</p> <p>高校生、大学生及び社会人を対象に、青少年に強い興味や関心を抱かせる体験プログラムを通して青少年の社会参加活動を促進する。</p> <p>土曜日を利用して子どもたちが希望する遊びや体験プログラムを提供する。</p> <p>児童厚生員が中心となって、簡単な創作活動などを通して、親子や参加者同士のふれあいを深める。</p> <p>青少年育成指導者に対して研修会を実施し、支援に必要な専門知識や技術の習得とともに、指導者同士の交流を深める。</p> <p>放課後における子どもの安全で健やかな居場所を確保し、学習、体験活動など地域の実情に応じた活動を行う。</p>	<p>(1)ゆーすふる・チャレンジャー会議 児童青少年センターの運営等に意見を述べるとともに、自主的行事・講座を企画、運営した。参加者541人。</p> <p>(2)チャレンジ・ボランティア 高校生、大学生及び社会人を対象にした青少年に強い興味や関心を抱かせる体験プログラムを通して、青少年の社会参加活動を促進した。のべ103名参加。</p> <p>(3)ふれあい土曜日 児童青少年センターで、土曜日を利用して子どもたちが希望する遊びや体験プログラムを提供した。月1回、参加者214人参加。</p> <p>(4)子育て講座 児童厚生員が中心となって、簡単な創作活動などを通して、親子や参加者同士のふれあいを深めた。また、講座の手伝い等を行う子育て講座ショートボランティアも募集し、ボランティア自身の意識の高揚につながった。年間9回、参加者115人。</p> <p>(5)青少年育成リーダー研修会 青少年健全育成活動や非行防止活動に必要な専門知識を習得するとともに、指導者同士の交流も深まった。年3回、総参加者約500人。</p> <p>(6)放課後子ども教室推進事業</p>	<p>ボランティアやジュニアリーダーとしての必要な知識や技術を習得し、地域活動にも参画するようになっている。また、放課後子ども教室の推進により、地域内で世代を越えた交流が生まれ、地域の活性化や地域の結びつきが深まるとともに、子どもたちの安全安心な居場所づくりの推進、青少年の健全育成につながっている。</p> <p>一方、ゆーすふる・チャレンジャー会議、青少年チャレンジボランティアに、より多くの青少年が参加する工夫が必要であるとともに、企画した内容によって、参加者が大きく増減する傾向があるので、より魅力的な内容の企画に努めたり、広報に工夫を入れたりしていかなければならない。</p> <p>さらに、放課後子ども教室は、平成20年度15地域で実施したが、平成21年度は20地域に増やし、その後、全小学校区で実施できるようにする計画である。順次設置できるように、地域との協議を順次進めていく。</p>
----------------------------------	--	---	--

		放課後における子どもの安全で健やかな居場所を確保した。市内15地域で実施、のべ13,438名参加。	
青少年健全育成団体支援 (生涯学習部青少年育成課)	<p>(1)社会を明るくする運動・青少年の非行問題に取り組む運動東広島市実施委員会 7月の「社会を明るくする運動」「青少年の非行問題に取り組む運動」の強調月間に合わせて、犯罪や非行を犯した人たちの更生についての理解を深め、犯罪の防止や青少年の非行防止、健全育成をねらいに、実施委員会(青少年育成東広島市民会議、東広島地区保護司会で構成)を組織し、様々な事業を展開する。</p> <p>(2)青少年育成東広島市民会議 青少年育成東広島市民会議は、関係機関、団体と連携をとりながら、明るい家庭づくりの推進、各地区の青少年育成活動、青少年の社会参加活動、青少年に好ましい社会環境づくりの推進を重点に置き、その具現化に向け、各種事業を展開する。</p>	<p>(1)社会を明るくする運動・青少年の非行問題に取り組む運動東広島市実施委員会 東広島市推進大会・啓発市中パレード(参加者約500人) 雨天のため、パレードは中止し、決起集会を実施 各町広報啓発活動 市内9町ごとに、広報啓発活動を実施、車による広報活動、駅頭、大型店舗頭などでの広報啓発活動やミニ集会など(参加者約300人)</p> <p>両運動への理解も深まり、どの活動にも多くの参加が得られるようになってきた。</p> <p>(2)青少年育成東広島市民会議 青少年育成市民運動の総合的推進のため、各学区で独自に開催する事業を拡大し、環境浄化活動を積極的に推進した。 「東広島青少年自立プラン」の目標達成のため、具体事業に関わる事業を展開した。 暴走族対策実行委員会の活動に積極的に加わり、実態把握や街頭補導、巡回補導を充実する。</p>	<p>(1)社会を明るくする運動・青少年の非行問題に取り組む運動東広島市実施委員会 7月の強調月間スタートに合わせて、「推進大会・啓発市中パレード」を実施した後、各町に分かれて広報啓発活動を行った。それにより、両運動の趣旨の浸透が図る効果的な事業が展開できた。</p> <p>(2)青少年育成東広島市民会議 青少年に大きな影響力をもつ家庭・学校・地域とが一体となった市民総ぐるみ運動が定着し、事業への参加者、協力者も増加してきた。社会状況に応じた幅広い活動を推進してきていることが、市内青少年の健全育成活動には欠かせない存在になってきている。合併後4年が経過し、全市事業と地域事業の内容の工夫を図る必要がある。</p> <p>課題として、両事業とも、事務局のあり方と後継者の問題がある。市全体における補助金団体の事務局のあり方についての協議を受け、事務局のあり方についての検討を進めるとともに、事業を推進する後継者の育成をしていく必要がある。</p>

		<p>青少年健全育成のための意見発表会である「ヤングメッセージ」、親子のふれあいを深めるための「チャレンジランキング」を実施した。</p> <p>地域で守るホームタウン・ルールの決定、実践や、いじめを許さない地域活動など「心の教育」を推進した。</p>	
<p>心の教育ホームサポーター (生涯学習部生涯学習課)</p>	<p>心の教育総合アドバイザーとホームサポーターが、学校の要請に応じて不登校や問題行動を抱える家庭に出向き、保護者、子どもに対して指導助言を行うなど、心の教育・生徒指導の充実を図る。</p> <p>市内の不登校及び不登校傾向にある児童生徒を対象に3泊4日の「夢・ふれあいロングキャンプ」を行い、集団生活の中で自己を見つめ直し、社会性や協調性、忍耐力を育み、学校復帰に向けての支援活動を行う。</p>	<p>心の教育総合アドバイザーは、学校だけでは対応が難しい不登校や問題行動などの児童生徒の様々な問題について、児童生徒への直接的な取り組み、家庭への対応、教職員への助言、支援体制づくりなどを進めた。また、ホームサポーターは、その活動を支えるために、児童生徒への対応や保護者の相談などに対応した。この教育実践活動は、現地主義での出張相談業務を基本として、心の教育、生徒指導の充実を図ってきた。家庭訪問を中心に、児童生徒及び保護者の支援を行った。訪問、面接、関係機関連携などの回数を合わせると、3名で1,200回以上。</p> <p>不登校児童生徒、不登校傾向児童生徒を中心とした(主には、フレンドスペースに通室する児童生徒)3泊4日の夢・ふれあいロングキャンプを実施した。</p>	<p>心の教育総合アドバイザーが学校の方針にしたがって、児童・生徒への直接的な取り組み、家庭への対応、教職員への助言、支援体制づくりなどを行ってきた。心の教育総合アドバイザーは、不登校児童生徒の中の深刻なケースに関わり、関わった児童生徒の中の約1/5は学校復帰、それを含めて約1/2については、状況が改善の方向に進んだと捉えている。</p> <p>不登校児童生徒への取り組みはケースバイケースであり、3名のアドバイザーにより、様々な角度からのアプローチができています。</p> <p>心の教育総合アドバイザー、ホームサポーターによる家庭訪問、面接相談、関係機関連携などの回数は1,200回を超えた。今後、さらにニーズは増えることが予想されるので、今後の活動について検討する必要がある。</p> <p>ロングキャンプに3名参加。</p>
<p>学校生活相談 (生涯学習部青少)</p>	<p>不登校児童生徒の学校復帰をめざした支援を行う適応指導教室を、西条・黒瀬・豊</p>	<p>(1) 適応指導教室 平成20年度は17人通室。通室する児童生</p>	<p>市内中心部だけでなく、黒瀬、豊栄に適応指導教室を開設することにより、受け皿が広くなり、</p>

年育成課)	<p>栄に3ヶ所に設置する。</p> <p>不登校やいじめ問題への対応等の課題に対応するため、メンタルアドバイザーやスクールカウンセラーを学校に派遣し、学校内における教育相談活動の充実を図る。</p>	<p>徒の多くは、家庭に引きこもった完全不登校の状態であるが、通室することにより、規則的な生活を送ることができるようになってきた。また、カウンセリングを通して、コミュニケーションが図れるようになってきた。また、学習支援、体験活動、集団活動等により、心が開かれ、たくましくなってきた。それにより、学校復帰したり、不登校の状況が好転したりしてきた。</p> <p>(2) 学校内相談活動</p> <p>メンタルアドバイザー、スクールカウンセラーを派遣し、学校内における教育相談の充実を図り、いじめ、不登校などの様々な児童生徒や保護者の悩みに応えるようにした。</p> <p>メンタルアドバイザー相談件数は約3,000件、スクールカウンセラー相談件数は約2,000件。</p>	<p>児童生徒、保護者のニーズに応えることができた。</p> <p>また、小学校における不登校や問題行動の増加を受け、小学校へのメンタルアドバイザーの派遣を実施し始め、その効果が数値にも表れてきている。</p> <p>小学校不登校児童数は、平成19年度の58人から平成20年度は28人と、30人減少した。さらに、心理的なアプローチの必要な相談に対応するスクールカウンセラー（主には、臨床心理士）が、生徒への助言はもちろん、教員や保護者に対しての専門的な立場からの助言を行い、不登校に限らず、生徒指導全般にわたって、効果が上がっている。</p> <p>しかし、不登校への取り組みを進める施設、職員間の連携があまりとれていない。そこで、不登校サポートセンターを拠点に、連携システムを構築していく必要がある。また、今までは小学校におけるスクールカウンセラーのニーズが少なかったため、ケースによっては中学校のスクールカウンセラーを小学校に派遣して対応してきたが、今後、小学校におけるニーズの増加が予想されるとともに、中学校においては、問題行動に関わる相談や保護者の相談が増加傾向にあるので、スクールカウンセラーの相談日数を増やすことを検討する必要がある。</p>
生徒指導の充実 (生涯学習部青少)	市内小中学校の生徒指導体制を見直し、課題を明らかにして、各校における組織的な	(1) 生徒指導進出 生徒指導上の課題に関する教職員の校外に	各校における組織的な生徒指導体制が確立し、生徒指導の充実が図られてきている。また、学校

<p>年育成課)</p>	<p>生徒指導の充実を図る。 文部科学省の「問題を抱える子ども等の自立支援事業」の委託を受け、学校が抱える生徒指導上の課題のうち、「いじめ」の未然防止や早期発見・早期対応につながる効果的な取組みを進めていく。</p>	<p>おける勤務時間外の指導及び教育活動の充実を図った。 年間総数 2, 261 回。 (2)生徒指導パワーアップ事業 小学校 4 校を生徒指導推進指定校に指定し、各学校の実態に応じたテーマのもと、管理職を中心とした組織的な生徒指導を研究した。小学校における組織的な生徒指導を推進するため、小学校生徒指導ハンドブックを改訂した。また、この効果を受け、中学校生徒指導ハンドブックを作成した。 各界から著名な講師を招き、生徒の心の教育の充実を図るために、スーパー講師を中学校に派遣した。 生徒や保護者への指導が困難なケースなどについて、生徒指導スーパーバイザーを派遣し、きめ細かい対応と学校への指導を行った。 小学校新 1 年生の保護者を対象に、親としての心構えや家庭教育の重要性を説く親のあり方講演会を開催した。 (3)問題を抱える子ども等の自立支援事業 地域支援サポートチームを結成し、指導員や地域が一体となり生徒指導の充実について学校を支援したり、巡視活動、体験活動を実施したりした。</p>	<p>が抱える生徒指導上の課題のうち、「いじめ」の未然防止や早期発見・早期対応につながる効果的な取組みが推進できた。 その結果として、小中学校とも、不登校数が減少(小 H19:58人 H20:28人、中 H19:182人 H20:152人)、いじめ発生件数は中学校で減少(小 H19:9件 H20:9件 中 H19:15件 H20:1件)、問題行動のべ人数は中学校で減少(小 H19:161人 H20:204人 中 H19:504人 H20:434人)した。しかしながら、小学校における、問題行動が増加傾向にある。特に、小学校の暴力行為が、H19年度には「0」であったものが、H20年度には9件と増加している。小学校における、問題行動への対応と未然防止の取組みを充実させる必要がある。 小学校では、不登校・いじめについては、数値目標を1割減、問題行動は2割減、中学校では、不登校・問題行動については、数値目標を1割減、いじめは2割減と定め取組みを進めていく。</p>
--------------	--	---	---

		<p>適応指導教室の活動を支援するため、相談活動や人間関係トレーニングの充実を図った。</p> <p>いじめ、問題行動、不登校への具体的な対応を示す「生徒指導実践プログラム」を作成した。</p>	
<p>子ども安全ネット事業 (生涯学習部青少年育成課)</p>	<p>子どもたちの安心・安全な登下校を守るため、子どもたち自身の危機回避能力を育成するとともに、地域においてより多くの人々による子どもたちの見守り体制を整えていく。</p>	<p>不審者出没情報をできるだけ早く提供するために、Kids 情報送信サービスによるメール配信、学校や関係機関へのFAXによる通知、市のHP掲載等により、情報発信した。子どもたちの危機回避能力を育成するため、防犯教室の開催、防犯ブザー購入補助、不審者対策・犯罪防止パンフレットの作成等を行った。</p> <p>地域において、より多くの人々の目で子どもたちを見守ることを目的に、不審者対策広報車巡回、学校安全ボランティア支援(講習会、保険加入、腕章・ステッカー貸与)などを行った。</p>	<p>不審者対策広報車巡回や7,400人を超える学校安全ボランティアの登録など、より多くの目で子どもの安全を見守る取り組みが進み、不審者の出没は減少傾向にある。学校安全ボランティアへの登録1万人をめざし、呼びかけていく。不審者出没情報は、平成19年度23件、平成20年度は21件。</p> <p>全小中学校で、防犯教室の開催や犯罪防止パンフレットを使った指導を通して、子どもたちの危機回避能力を育成した。</p> <p>学校安全ボランティアを対象とした講習会を年間3回開催し、スクールガードリーダーによる見守り活動への助言、救急蘇生法や地域安全マップ作りを通じた技術の習得、参加者同士の情報交換ができ、地域で子どもを守ろうとする機運がさらに高まった。</p>
<p>地域家庭教育活性化 (生涯学習部生涯学習課)</p>	<p>本市の家庭教育支援の充実を図るために、身近な地域におけるきめ細かな家庭教育支援を行うことを目的とし、市内おやじの会(12団体)の活動支援と普及啓発及び</p>	<p>親子体験講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内おやじの会(12団体)の活動支援</li> <li>・おやじの会の活動紹介パンフレットの作成</li> <li>・おやじサミットの開催</li> </ul>	<p>これまで母親に頼りがちだった家庭教育において父親の参画が求められている現在、地域の「おやじ」が地域行事や体験活動を子どもたちと行うことで、地域同士の交流が深まり、地域の家庭教</p>

	<p>小中学校において子育て講座を行う。</p>	<p>平成21年2月21日(土)参加者250名 子育て講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参観日等を活用した子育て講座</li> <li>・ 思春期の子どもを持つ親のための子育て講座</li> <li>・ その他、社会教育施設での子育て講座</li> </ul> <p>子を持つ親の子育てに関する悩みや不安の解消、自己啓発を目的として、専門の講師による講演の実施等を行う。</p> <p>国の「地域における家庭教育支援基盤形成事業」を受託して行った。</p>	<p>育力が活性化されている。</p> <p>一方で、おやじの会への活動支援のあり方や各地区へのおやじの会設立の啓発が課題となっている。</p>
--	--------------------------	---	--

### 施策1-5 市民が主体となった学習活動の充実

事務事業名 (所属)	目的	H20年度の取り組み実績及び成果	評価及び課題
生涯大学システム 運営 (生涯学習部生涯学習課)	<p>東広島市内の学習支援サービスを提供する機関・団体のもと、市全体が市民の学びを支えるキャンパスとなり、一人ひとりの自己実現につながる様々な学習を応援していくこと(学ぶ) また、学んだことを生かすことのできる環境をつくること(生かす)で、学園都市にふさわしい豊かな地域実現を目指すという、本市独自の「東広島市生涯大学システム」事業の普及・定着を図る。</p>	<p>(1)生涯大学システム運営協議会(参加21団体)代表者会及び幹事会の開催(必要に応じ開催)</p> <p>(2)学習メニューブック、パスポートの発行、5日制ノートの配布</p> <p>学習メニューブックの発行(年2回、計434講座)</p> <p>パスポートの発行(登録者数 H20.3末:538名 H21.3末:580名)</p> <p>5日制ノートの配布</p> <p>課外活動について記録し、ポイント達成者には、学ぶキッズ賞として賞状と副賞を各学校を通じて贈呈。まなぶちゃんノートを新小学1年</p>	<p>出前講座において、開催件数の伸びが著しい。地域へ講師が出向くため、また無料で専門家の話を聞くことができるため、利用が増加している。また、何回も利用される団体が多い。ゴミ問題、子育て、高齢者医療等身近なことに関する講座の依頼が多く、市民の聞きたいこと、知りたいこと等市民ニーズに合った内容がメニュー化されていると評価される。</p> <p>生涯大学パスポートの登録者が増加しているところから、市民の学習意欲が高まり、生涯大学システムの効果が現れていると言える。</p> <p>5日制ノートについても、小学校で児童・生徒</p>

		<p>生全員に、ジュニアパスポートを新中学1年生全員に配布した。</p> <p>(3)モデルプログラムの実施</p> <p>東広島学(近畿大学連携)</p> <p>市長や市職員等を講師に、教員養成課程必須科目として全15回実施。東広島市について学んだ。市民も受講。</p> <p>教職員キャリアアップ研修(広島大学連携)</p> <p>広島大学大学院の教職員を講師に、各小・中学校長から推薦を受けた中堅教職員を対象に4日間実施。</p> <p>ひがしひろしまスペースクラブ(広島大学連携)</p> <p>広島大学大学院の教職員や大学院生を講師に、全8回で小4～中3を対象に実施。宇宙について学んだ。</p> <p>学んで輝くひと・まち・塾(広島国際大学連携)</p> <p>・ボランティア発見講座</p> <p>市内のボランティア団体等を講師に教員養成課程選択科目として全8回実施。市民も受講。</p> <p>・サマーカレッジ</p> <p>団塊の世代を対象に、広島国際大学の教職員を講師に全3回実施。学生も受講。</p> <p>市民参画型生涯学習企画講座(広島大学連携)</p> <p>市民やボランティア団体に広報等で、講座の</p>	<p>数に対するポイント達成者の割合が、平成19年度10%から平成20年度20%と倍増しており、学外の学びについての動機付けという役割が浸透してきている。各学校に配置している生涯学習担当者の取り組みの成果と言える。</p> <p>等が評価としてあげられる。</p> <p>一方、</p> <p>大学連携の各モデルプログラムの内容が、3年を経過してマンネリ化が見受けられるので、内容の吟味・検討が必要。</p> <p>生涯学習システムの各プログラムについて、もっと広い広報が必要。せっかくのいいプログラムが、まだ市民に浸透しているとは言えない。</p> <p>幅広く広報して、利活用の増大を図る。</p> <p>5日制ノートについては、小学校高学年や中学生への啓発、取り組み内容の検討が必要。</p> <p>等が課題としてあげられる。</p>
--	--	--	--



		<p>企画を募集し、応募の中から2つの講座を選定し、広大からの指導・助言を受けながら市民やボランティア団体自らが企画した講座を実施運営。</p> <p>(4)出前講座の実施 メニューは97講座。計215回実施し、延べ9,000人が受講。</p>	
<p>生涯学習フェスティバルの開催 (生涯学習部生涯学習課)</p>	<p>一人ひとりが生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学習することができ、その成果が適切に評価される生涯学習社会の実現をめざして、新たな交流や連携を生み出す活動の機会を提供するために開催する。</p> <p>また、公民館活動等の日頃の学習成果の発表の場としての位置づけも重要。</p>	<p>11月1日(土)～2日(日)[メイン会場：アクアパーク(東広島運動公園)体育館]で開催 「東広島健康福祉まつり」との共同開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針 市民の能力開発と生涯大学システムの推進 子どもの生涯学習支援 生涯学習と福祉の協働 市民参画の拡充</li> <li>・総合テーマ「新たに創造する生涯学習のまちづくり」</li> <li>・大会テーマ「未来の夢 みんなで高める 学びの場」</li> </ul> <p>地域体験・参加型イベント(主開催の2日間を含む、前後各1週間の計2週間の期間内に、市内の様々な地域で展開する市民の企画運営による体験型の委託事業)の実施</p> <p>H20年度：実数27,600人(内訳：メイン会場</p>	<p>庁内の部局の参加が継続しており、全庁的な生涯学習の推進を展開。</p> <p>大学からの参加ブースも多く、児童生徒や一般参加者にとって大学を身近に捉える絶好の機会であり、生涯大学システムとの関連からも大変意義深い。</p> <p>ボランティアゾーン・公民館ブースにおいて、市民が直接体験学習できる場を提供できた。等が評価としてあげられる。</p> <p>一方、近隣に駐車スペースが少ない。また、公共の交通機関も少ないため、来場がやや困難。健康福祉まつりの同時開催のため、会場の広さが充分でない。</p> <p>等、主にハード面についての課題があり、対策を検討している。</p>

		25,500人、中央図書館 2,100人)	
地域生涯学習のまちづくり (生涯学習部生涯学習課)	市民の自主的な参加のもとに真に豊かで住みよい地域づくりの推進を図ることを目的として、自主的かつ主体的にまちづくり活動に取り組んでいる団体等が実施する、地域の特性やふるさと資源を生かした個性的で魅力ある地域づくり推進事業に補助するもの。	補助金額：まちづくり協議会ごとに15万円を限度とする。 補助金の交付対象 ・地域生涯学習のまちづくり協議会が行うまちづくり事業 ・地域づくりのための啓発・学習活動のための事業 ・地域づくりを担う人材を養成する事業 ・地域づくりの将来ビジョンの策定に係る事業 ・その他個性的で魅力ある地域づくりのための事業 同一の事業が続けて補助金の交付対象となる期間は、3年間を限度とする。  各小学校区ごとに結成された「まちづくり協議会」全45団体のうち、43団体が交付申請。	全45団体中43団体に対し、地元の自主的な地域づくりの活動を支援できた。 一方、小学校区(福富・豊栄・河内については旧小学校区)を単位とする生涯学習のまちづくり協議会の存在は大きいものと考えられるが、補助金の事業内容が世代間・地域間交流を主としたイベント型事業が大半を占めており、地域課題や生活課題の解決に向けた事業展開へステップアップする必要がある。
西日本生涯学習シンポジウムの開催 (生涯学習部生涯学習課)	全国的に生涯学習の理念も広まり、生涯学習社会といわれる今日、学習の内容も多様化・高度化しつつある。このような中で、学習の成果が地域の創造や活性化に生かされ、市民と行政の協働による生涯学習のまちづくりをさらに推進していくことを目指し、西日本生涯学習シンポジウムを開催する。	「西日本生涯学習シンポジウム」を本市で開催した。本市は協議会事務局を担当しており、市からも地元開催の負担金100万円を支出しているが、運営にかかる事務は本市職員により行った。 このシンポジウムは、近隣市町の行政職員や全国で生涯学習のまちづくりを推進する関係者の研修の場であると共に、学習の成果が地域の創造や活性化、市民と行政の協働によるまち	記念講演「輝いて生きたい」では、お茶のCMで「60歳デビュー」した市田ひろみ氏による素敵に老いる秘訣や「あの人のようになりたい」と憧れる人物を目指してチャレンジしてきたエピソード等により壮年世代が活力を持つ良き機会となった。シンポジウムでは、市民が学習者として高まり、それを的確につかむ行政の力や質を研修で高めてこそ協働のまちづくりにつながることを、また、市民同士が学びあうことは地域の文化度を高め、そ

		<p>づくりへとつながるものとして北海道から鹿児島県まで約 700 名の参加者が会場に集まり、交流を深めた。</p> <p>開催テーマ 「まち全体を学びのキャンパスに」</p> <p>主催 全国生涯学習市町村協議会 共催 東広島市・東広島市教育委員会 後援 広島県教育委員会・NPO法人全国生涯学習まちづくり協会</p> <p>開催日 平成 21 年 2 月 7 日(土) 8 日(日) 開催場所 東広島市中央公民館大ホール</p> <p>内容 アトラクション：組曲「西條」(西条中学校) 基調提案：「市民と行政の協働による生涯学習のまちづくりの方向」(提案者 福留 強 聖徳大学教授) 対談講演：「輝いて生きたい」(講師 市田ひろみ氏 / 福留強氏) シンポジウム：「“市民が主役のまちづくり”とは？」 エクスカーション(市内視察)等</p> <p>参加者 全国生涯学習市町村協議会加盟市町村・近隣市町村自治体職員、全国生涯学習まちづくり協会会員・一般 他</p> <p>実績 2 / 7 ; 約 700 名 2 / 8 ; 18 名 (観光</p>	<p>こで成長する子ども達に大きな影響をもたらすことなど、討議により市民が主役のまちづくりについて共に学ぶ機会となった。交流会では近隣からの参加者や北海道(本別町、稚内市)から鹿児島県(志布志市、霧島市)に至る全国各地からの会員らが親睦を深める場として、各市町で進める施策についての情報交換など行い、有意義なものとなった。</p>
--	--	--	---

<p>来てみているいろいろ体験講座（完全学校週5日制対応） （生涯学習部生涯学習課）</p>	<p>完全週5日制対応事業として、学校外の様々な体験活動を通じて、子どもたちの「生きる力」を育む。</p> <p>地区公民館を拠点に、自然体験活動や文化体験講座を地域と学校が連携し実施する。</p> <p>児童青少年センターにおいて、土曜日を利用して子どもたちが希望する様々な遊びや体験活動のプログラムを提供するとともに、参加者同士のふれあいや交流を図る。</p> <p>中央公民館において、家族がともに活動できる場を提供するとともに、様々な世代、伝統文化に接しながら人とのふれあいを通じて豊かな感性、社会性と深い親子関係を培う。</p>	<p>ボランティアガイド 1名含む)</p> <p>【生涯学習課】 実施回数 1,658回・のべ参加人数 31,460人</p> <p>【青少年育成課】 東広島市ゆーすふる・チャレンジャー会議 33名委嘱、企画行事参加者 541人 公民館ゆーすふる・チャレンジャー会議 企画行事 2回 青少年チャレンジボランティア 保育・福祉・牧場3活動実施、のべ 103人参加 ふれあい土曜日講座 12講座実施、214人参加 子育て講座 9講座実施、115人参加</p> <p>【中央公民館】 親子ふれあい教室 全 10講座、延べ参加人数 289人 親子ふれあいコンサート 年 1回 参加者 300人 親子ふれあい演劇 年 1回 参加者 900人 親子ふれあい映画会 年 5回 参加者 820人</p>	<p>【生涯学習課】 小学校や地域の方の協力を得て普段できない体験をすることができている。課題は各公民館によって異なるが、内容のマンネリ化・参加者の固定化・指導者不足などがあげられる。</p> <p>【青少年育成課】 ゆーすふる・チャレンジャーとなったメンバーのリーダー性の育成が図られるとともに、企画行事の参加者からの評価も高い。チャレンジボランティアに参加する青少年が、この活動を通して、将来への展望を持っている。ふれあい土曜日講座、子育て講座とも、児童青少年センターの活動として定着してきている。しかし、ゆーすふる・チャレンジャーが将来の地域リーダーとなるための活動内容の工夫が必要である。また、活動を活発化させるためには、委嘱するメンバーを増やさなければならない。公民館ゆーすふるチャレンジャーについては、放課後子ども教室の活動と重なる部分が強い。活動の方向性について検討する。チャレンジボランティアについては、活動内容によって参加者が定員を満たない場合がある。参加する青少年のニーズに応える活動や体験プログラムを再考するようにする。</p> <p>【中央公民館】 親子ふれあい教室では、普段体験できない事を</p>
--	---	--	--

			<p>体験し、作品を完成させるなど、どの講座についても親子で楽しんで取り組み、週五日制対応事業としての成果をあげることが出来ている。また、広島大学と連携した、科学体験工作の講座も毎年行い、好評である。</p> <p>親子ふれあいコンサート、親子ふれあい演劇は、本物の芸術に触れる良い機会となっている。</p> <p>親子ふれあい映画会は、親子で名作アニメを楽しみ、休日を親子で過ごす良い機会となっている。</p> <p>ロビーふれあいコンサートは、お昼の時間を利用して気軽に音楽に触れる良い機会となっている。広島大学とも連携し、学生に出演依頼しているが、好評である。</p> <p>完全学校週五日制対応事業として、今後もいろいろな講座を開催していく必要があり、内容もマンネリ化しないように企画していく。また、大学（広島大学、エリザベト音楽大学等）との連携を図っていく。</p>
<p>公民館整備 （生涯学習部生涯学習課）</p>	<p>生涯学習のまちづくりの拠点としての施設整備のため、福富・河内支所改修、地区公民館安全点検、原公民館空調改修、安芸津公民館耐震診断を実施する。</p>	<p>支所改修：支所庁舎（福富、河内）の空スペースを生生涯学習施設として利用するための改修工事を行った。福富支所の2階部分を公民館と図書館として改修し、河内支所の2階及び3階部分をそれぞれ河内こども図書館と公民館として改修を行なった。</p> <p>安全点検：地区公民館施設の建物躯体、設備等の状態を点検調査した。</p>	<p>支所改修によって、支所が複数の公共サービスを1箇所で開催することとなり地域住民の利便性の向上が図られた。</p> <p>安全点検業務及び耐震診断を実施し、公民館施設の現状を把握することができた。</p> <p>今後は、安全点検業務及び耐震診断の結果を受けてH21年度以降改修計画を立て、それに基づ</p>

		<p>原公民館空調改修：空調機器の老朽化に伴う改修工事を行った。</p> <p>安芸津公民館耐震診断：耐震改修促進法に基づく特定建築物についての基準により、階数3階以上かつ1,000㎡以上の安芸津公民館について耐震診断を実施した。</p>	<p>いて改修を行なう必要がある。</p>
<p>公民館活動の推進 (生涯学習部中央公民館・生涯学習課)</p>	<p><b>【中央公民館】</b>          実際生活に即する教育、学術及び文化に関する講座を開講することにより、生涯学習の機会を提供し、市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。</p> <p><b>【生涯学習課】</b>          生涯大学システム第1次学習圏としての活動事業の活性化を図る。          地域の多様な学習課題に対応した学習機会、学習情報の提供等を通じて、地域住民の学習活動を支援し、学習拠点としての機能を充実する。          地域の家庭教育支援拠点としての機能を充実する          子ども向けとして、学校5日制対応事業“来てみていろいろ体験講座”を実施し、子どもたちの奉仕活動・体験活動の推進を通して健全育成を図る。</p>	<p><b>【中央公民館】</b>          一般向け講座 27講座、のべ参加人数 1,904人          親子ふれあい教室他          ・親子ふれあい教室 10講座、のべ参加人数 289人          ・親子ふれあいコンサート 参加者 300人          ・親子ふれあい演劇 参加者 900人          ・親子ふれあい映画会 年5回、参加 820人          ・ロビーふれあいコンサート 年10回、参加者 460人          ・講座開講記念講演会 参加者 200人          ・講座修了記念発表会 参加者 250人          地域住民の要望やこれまでの実績等をふまえ、地域の学習ニーズに添えていくとともに、生涯学習システムの拠点機能を高める。</p> <p><b>【生涯学習課】</b>          地区公民館主催講座 実施回数延べ 10,292回・延べ参加者 171,630人(子ども向け・イベント含む)</p>	<p><b>【中央公民館】</b>          新規講座や地域課題、現代的課題に即した講座を開催し、参加者も増えている。          学習の発表の機会を設けたり、講座終了後は自主サークルとして活動するなど、自ら進んで学習活動を行う生涯学習のきっかけ作りとしての成果は上がっている。          課題としては、参加者が固定化する傾向にあること、市民のニーズと公民館が実施したいと考える講座とのギャップがあり、参加者が少ない講座がある。PRの方法を工夫するなどして、参加者の増加を図る。          大学との連携も引き続き図りながら、講座等実施していく。</p> <p><b>【生涯学習課】</b>          それぞれの地域の実情に合わせた講座を幅広く開催しており、参加者も増えている。学校などとの連携を図っている公民館も多い。          課題としては、主催事業から自主サークルへの移行が進まず、講座の内容・参加者共に固定化す</p>

<p>図書館管理運営事業 (生涯学習部中央図書館)</p>	<p>図書やその他の資料を収集、整理、保存し、その提供を通じて住民の学習を支援する。また、図書館が利用者の期待に応え、よりよいサービスを実施するため、施設の維持管理に努める。</p>	<p>(1) 図書館サービスの提供          図書 35,948 冊を購入して、利用者に閲覧・貸出による提供を実施した(蔵書 524,430 冊)          年間の図書の貸出冊数は 1,205,448 冊。年間の利用者数は 313,239 人。          ボランティアの協力を得て、各図書館で地域の特色を生かし、本に親しんでもらうために、様々な事業、行事に取り組んだ。</p> <p>(2) 全域サービスの充実          中央館・地域館計 7 館と、移動図書館の、一般ステーション 26 か所、小学校等の学校 43 か所(新規に黒瀬特別支援学校へ巡回開始)の市内全域への巡回の実施により、市内各地域市民に図書館サービスを提供した。          市の南部地域を巡回する移動図書館車 1 台について、中央図書館から黒瀬図書館に拠点を移して、より地域に密着したサービスが提供できるようにした。</p> <p>(3) 図書館の移転・整備          中央図書館福富分室、河内こども図書館の支所への移転が 21 年 3 月に完了した。</p>	<p>る傾向にある。</p> <p>年間の図書の貸出冊数は前年度比 3.3%、利用者数は 3.6%増加(19 年度の貸出冊数 1,167,070 冊、利用者数は 302,361 人)するなど、全体的に利用は増加しており、利用者の生涯学習に貢献している。</p> <p>市民の暮らしの中に図書館の存在が定着してきている。</p>
-----------------------------------	---	--	---

## 施策 1 - 6 生涯にわたってスポーツを楽しむ環境の形成

事務事業名 (所属)	目的	H20年度の取り組み実績及び成果	評価及び課題
生涯スポーツの充実 (生涯学習部スポーツ振興課)	市民のスポーツを通しての健康の保持・増進及び競技力の向上を図る目的で、市民スポーツ大会をはじめとする、各種スポーツ大会などの健康増進事業の開催、地域スポーツの振興を図るため各種スポーツ団体の育成やスポーツ施設の管理運営を行う。	<p>第20回市民スポーツ大会の開催 陸上の部 参加者 5,500人、球技の部 参加者 2,200人 ひろしま県央競歩大会及びさわやかウォーク(歩こうDAY) 競歩参加者 188人、ウォーキング参加者 69人 東広島市体育協会助成 団体育成事業 21団体 地域振興部助成事業 4団体 小学校区体育振興会助成 37小学校区(各120千円) 東ひろしま新春駅伝競走大 135チーム参加 小・中学校体育館・グラウンド開放 100施設 18,671件 343,022人利用 小学校プール開放 35施設、51,019人利用 市民体育館・市民・区民グラウンド等 15施設、133,806人利用 市民・区民プール等 9施設 71,377人利用</p>	<p>スポーツに親しむ機会の提供については、各種大会等の参加数は年々増加しており、市民の生涯スポーツへの関心等は高まっている。また、各小学校区体育振興会において、地域の特性を活かしたスポーツ行事を開催し、多くの市民が参加している。</p> <p>競技スポーツの振興については、東広島市体育協会への助成を通じて各種スポーツの普及振興と競技力向上を支援し、第63回おおいた国体では、1名の優勝者他6人が入賞している。</p> <p>学校体育館・グラウンド・プール開放及び市民体育施設等のスポーツ施設の管理を行ない、市民の健康・体力づくりやスポーツの振興を推進した。</p>
スポーツ施設整備 (生涯学習部スポーツ振興課)	「いつでも どこでも 誰もが楽しめる生涯スポーツ社会の実現」を目指すために、市民がスポーツを通して、健康で明るい市民生活を営むことができるよう、スポーツ施設の整備を行う。	<p>(仮称)福富パークゴルフ場管理棟新築等 工期:平成20年8月14日~平成21年1月30日 構造:木造平屋 72.04㎡(ホール・事務室・倉庫他)</p>	<p>県と市で整備中である福富パークゴルフ場の供用開始に向けて、管理棟の整備を行なったが、ダム試験湛水の遅れから、コースが未完成でありオープンが遅れている。また、安芸津B&amp;G海洋センター下水道接続工事等の施設改修を行なっ</p>



		社会体育施設整備 安芸津B & G海洋センター下水道接続 八本松市民グラウンド、福富運動公園グラウンド防球ネット改修	た。 合併後のスポーツ施設配置構想の検討が必要である。
--	--	--	--------------------------------

## 施策 2 - 2 多様な保育サービスの充実

事務事業名 (所属)	目的	H20年度の取り組み実績及び成果	評価及び課題
児童の活動拠点づくり (生涯学習部青少年育成課)	<p>東広島市児童青少年センターを市内の児童生徒の心の居場所となるよう管理・運営する。</p> <p>青少年の健全育成と非行防止活動を推進する少年補導センターとしての機能の充実を図る。</p> <p>生涯学習の視点に立ち、明るい家庭作りの推進、各地区の育成活動の強化、青少年の社会参加活動の促進、青少年の育成に好ましい社会環境づくりの推進を主眼に活動する青少年育成東広島市民会議・社会を明るくする運動東広島市実施委員会の活動に対して補助金を交付する。</p> <p>東広島市の学校教育の代表として高い評価を受け、市のイメージアップにも大きく貢献している西条中学校の「組曲：西條」、西条小学校の「オペラ白壁の街」の取り組みに対して市内の企業から寄附をつのり、そ</p>	<p>児童青少年センターの利用状況</p> <p>一般の利用者：49,259人</p> <p>青少年育成関係団体：41団体613人</p> <p>心配な青少年への声かけ、指導、相談を、心の教育総合アドバイザー、補導指導員を中心に行った。また、暴走族対策実行委員会の巡視活動を実施した。巡視活動は、全市、黒瀬町を対象に年間19回実施し、参加者1,017人。高屋町では、年間50回、1,616人の参加があった。</p> <p>補助金団体の具体的な事業として、青少年育成リーダー研修会、非行防止啓発活動、環境浄化活動、ヤングメッセージ(参加者350名)、チャレンジランキング(参加者600名)、ケータイ電話の危険性の啓発リーフレット作成配付、社会を明るくする運動東広島市推進大会・啓発市中パレード、各町広報啓発活動などを行った。</p>	<p>センター利用者への満足度に関するアンケートでは、利用者の98%から肯定的な回答を得た。駅前、大型店舗等にたむろする青少年はいるが、顕著な非行少年グループ、暴走族の活動はない。地域による青少年の見守り活動が効果を上げている。</p> <p>市民啓発(サイバー犯罪の増加について)のリーフレットを作成し、全戸(65,000戸)に配布した。</p> <p>青少年地域活動日(ゆーすふる・サンデー)推進事業(9,820人、40小学校区で実施)酒まつりで、西条中学校の組曲「西條」、西条小学校の「オペラ白壁の街」の発表を行い、参加者から大きな反響があった。</p> <p>児童青少年センターが土日を開館日としているため、職員の勤務の割り振りが不規則となる。教育相談等利用者への指導助言等が必要となる場合があるため、指定管理者制度の導入が難し</p>

	<p>の寄附金を補助金として充てる。(平成16年から5年間)</p>	<p>200万円の寄付金から、組曲「西條」に取り組む「とらい・やる21西条中学校実行委員会」に105万円、オペラ「白壁の街」に取り組む「西条小学校PTA」を支援していくために85万円、それぞれ補助した。</p>	<p>い。 補助金団体の事務局のあり方について検討する必要がある。 平成20年度をもって終了した補助事業について、各実行委員会が自立して、活動資金を確保するようにするが、今後、支援は続けていく(青少年健全育成関係の補助事業の紹介など)。</p>
--	------------------------------------	---	--

### 施策3-1 歴史・文化の継承と新たな市民文化の創造

事務事業名 (所属)	目的	H20年度の取り組み実績及び成果	評価及び課題
指定文化財の保存活用 (生涯学習部文化課)	<p>指定文化財について、文化財所有者・管理者との連携を密にし、適正な維持管理を行うとともに、保存と公開を実施する。 重要文化財旧木原家住宅等、市所有の指定文化財等の維持管理と公開活用を進める。 文化財に関する行事を実施し、文化財保護意識の高揚と普及に努める。</p>	<p>指定文化財の環境整備(除草、清掃、古文書虫干し等)の実施71件に対して補助 市所有文化財施設(旧木原家等)の管理と公開活用 教育普及事業(小中学校への出前博物館9校、614人、出前講座6カ所、224人、親と子の体験歴史村61人、小田神楽五行祭実演100人等) 文化財リーフレット等の作成、配布(史跡三ツ城古墳、国登録文化財リーフレット等) 指定文化財防火設備点検補助(重要文化財竹林寺本堂、重要文化財福成寺本堂内厨子)</p>	<p>指定文化財の維持管理については、所有者や管理者に対して恒久的な保存とともに公開活用を促進する機運を高めるために実施するもので、その目的は達成していると考えられる。このため、今後も所有者や管理者の理解を得て継続的に実施する必要がある。 各種の文化財に関する行事は、参加者が増加傾向にある。 合併に伴い指定文化財の数も増加したが、全てを網羅する解説書や詳細な位置図等がないため、今後、こうした書籍類の作成と配布を検討する必要がある。</p>
文化財の調査 (生涯学習部文化課)	<p>各種開発事業者の協議申請等に基づき、分布試掘調査を行い、埋蔵文化財の有無を確認するとともに、その取扱いについて適切</p>	<p>開発に伴う埋蔵文化財の分布試掘調査と、権限移譲に伴う指導・助言(協議件数222件、試掘調査件数45件)</p>	<p>H20年12月から宅地取引に関する法律の改正によって、埋蔵文化財の有無を確認する協議が増加しており、これに対応する体制(H21年</p>

	<p>な指導助言を行なう。</p> <p>都市化が進む中で、失われつつある各種文化財についての悉皆調査を進め、保護・保存対策を講じるための資料を得る。</p> <p>文化財の指定調査、合併町指定文化財の調査と再検討を進める。</p>	<p>重要遺物（木製品）の保存処理（503点）</p> <p>各種文化財の基礎（悉皆）調査</p> <p>動植物調査、コモ樽製作技法の記録（報告書作成）</p> <p>合併町指定文化財の調査と再検討（62件のうち56件終了）</p>	<p>度から埋蔵文化財係を設置）強化ができた。</p> <p>文化財の基礎（悉皆）調査では、県内で唯一残っていたコモ樽の製作記録が出来上がった。おそらく数年後にはこの技術も絶えてしまう可能性が高いものである。また、動植物調査についてはほぼ終了したため、今後は報告書の執筆に取り掛かる計画である。</p> <p>各種文化財の基礎（悉皆）調査については、旧市を中心に計画されたものであるため、将来的にはこれを新市全体に広げていく必要がある。</p>
<p>史跡等保存整備 （生涯学習部文化課）</p>	<p>地下に眠る古代の安芸国分寺の伽藍跡を恒久的に保護・保存するとともに、これを現代社会のなかで歴史公園として新たな機能を付加し、市民をはじめとする多数の人々の活用に供する。</p>	<p>保存整備工事は、史跡指定地の東側工区（中央部）について遺構の保存を目的とした造成を実施し、併せて板塀や井戸の表示と植栽等を行なった。</p> <p>公園用地については、H14年度に公有化できなかった土地（111㎡）について、地権者との協議が終了したため、これを購入した。</p>	<p>保存整備工事（歴史公園化、H24年度末完成予定）は、H15年度から開始して6年が経過し、全体の約65%が終了した。工事期間が長いこともあり、整備が終了した区域については順次公開しており、市民の憩いの場とともに近隣の幼稚園や小学校等の学習広場として好評を得ている。</p> <p>駐車場やガイダンス施設の整備が計画縮小され、中止となっている。しかし、多数の来訪を想定した歴史公園の活用には、アクセス進入路の確保やこうした施設も必要不可欠なことから、改めて整備の検討を行う必要がある。</p>
<p>町史編さん （生涯学習部文化課）</p>	<p>合併旧町の締めくくりとして、安芸津町史の編さんを行い、同町の歴史を継承する町史を刊行する（H21年度末刊行予定）。</p>	<p>資料調査を実施し、それに基づいて原稿の執筆を進めるとともに、原稿の一部については編集印刷を開始した。</p> <p>町史編さん委員や執筆者等の努力によって、</p>	<p>これまで不明であった安芸津地域の歴史を、史・資料に基づいてある程度まで明らかにすることが可能になってきた。原稿についてもスケジュールに沿って順調に進んでおり、当初計画</p>

		<p>これまで明らかでなかった近世及び近代の文献資料を数多く発見する事ができた。特に三井文庫（三井物産株式会社）と防衛庁史料編さん所では、三井造船関係（第二次世界大戦前）の一括資料〔三津を中心とした軍用道路計画（都市計画）、三井病院（現県立安芸津病院）、軍需工場（造船中心）と海岸の埋め立て等〕が保管されていることが明らかとなり、協議の結果、初公開の承諾を得たため、町史への掲載を検討している。</p>	<p>以上の町史が出来上がると考えられる。市史編さんが次期の課題となって来るため、5町史刊行の元となった関係史資料を整理し散逸を防ぐとともに、〔非現用〕となる市公文書の内「歴史的公文書」を、公文書館法等に基づき適切に継承する体制の整備が必要。</p>
<p>芸術文化の振興 （生涯学習部文化課）</p>	<p>市立美術館を活用して美術鑑賞機会の提供と制作表現活動の振興を図るほか、音楽コンサート公演の実施及び文化団体への助成等を行い、本市の芸術文化の振興を図る。</p>	<p>美術館では、所蔵作品展2回、所蔵企画展（日本の近現代版画展）1回、特別企画展（現代絵本作家原画展、現代の造形展）2回のほか、市民を対象とした公募展「東広島市美術展」などを開催した。また、小学校5校を対象に美術館の所蔵作品を持ち込んで鑑賞教育を行う「出前美術館」と小学校6校を対象に本物の芸術に触れ、体験してもらう芸術家出張授業を芸術家2人（絵画、ギター）に依頼して実施している。その他、市中央公民館を会場として広く一般を対象とした広島交響楽団のコンサートを開催した。</p> <p>また、市内文化関係団体に対して助成しており、自主的な各種文化事業が開催されている。東広島市文化連盟に多くの地域文化団体が加盟し、生活の潤いやコミュニケーションを豊か</p>	<p>美術館の新企画として所蔵企画展「日本の近現代版画展」を開催しており、所蔵作品による展覧会としては破格と言えるほど多くの来館者を迎えることができた。これは、版画をコンセプトの一つとして収蔵活動を継続してきた本市美術館ならではの特色を展覧会に活かした効果によるものと考えている。</p> <p>また、出前美術館と芸術家出張授業は学校の先生及び児童から好評で、展覧会に合わせて土・日曜日に開催している小学生を対象としたクイズとも連携して、美術館へ来館する児童・生徒の増加につながっている。</p> <p>美術館来館者数：総計 9,243 人 出前美術館：小学校5校延べ 504 人 芸術課出張授業：小学校6校延べ 323 人 広響コンサート：来場者数 561 人</p>

		に育む源となっている。	一方、美術館来館者等利用促進のための広報普及活動の手段を拡大していくことが重要であり、現在取り組んでいるところである。
美術品購入 (生涯学習部文化課)	本市の芸術文化の向上を図る上で、美術館の果たしている役割は大きい。継続的・系統的に美術品を購入することにより、収蔵美術品を充実、展覧し、特色ある美術館運営を図る。	平成20年度は、「市立美術館美術品等収集委員会」の審査を経て、6作家10作品の版画作品及び2作家2作品の陶芸作品を購入できたほか、1作家1作品の版画作品、1作家2作品の絵画作品及び1作家1作品の彫刻作品の寄贈があった。 これまで美術館で収蔵した美術品は購入作品328点、寄贈作品268点で、合計596点となっている。	本年度は、本市美術館の美術品収集方針に基づき、日本の近現代版画を代表する作家の代表的な作品や現代陶芸作家の作品及び広島県ゆかりの日本を代表する作家の絵画作品及び彫刻作品を収集することができた。 これまでに収蔵した美術品は、372点の近現代版画を中心として、現代作家の陶芸作品や絵画作品などである。タイムリーな収集が必要な美術品事情にあって、継続的に収集してきた実績はきわめて意義の大きいことであり、特に近現代版画については、全国的にみても有数のコレクションを有する美術館となりつつある。 一方、収蔵スペースが狭隘なため、適切な保存管理に支障を来しつつある。そこで、現在スペースの拡張を検討しているところである。
市民ミュージカル公演助成 (生涯学習部生涯学習課)	市民ミュージカルの公演を通して、文化・芸術に関する情報を発信し、市の活性化に資するとともに地域文化の向上に寄与し、幅広い年齢層のコミュニケーションと児童の情操教育づくりを図るなど、地域文化の向上に寄与する市民ミュージカル制作実行委員会に対して補助を行うもの。	(1)助成内容 補助金申請者 東広島市民ミュージカル制作実行委員会 委員長 家森 建昭 補助金交付金額 3,000千円 (2)公演内容 参加スタッフ(3会場) 約100人(台本編集、歌唱指導、大道具制作、舞台転換など) 西条会場(第2回)	ミュージカルは、文学、音楽、舞踊など、総合芸術としてあらゆる要素を持ち備えており、舞台を志す一人ひとりが持っている素晴らしい個性や才能を開花させ、多くの人とのふれあいの中で共に学び合い、その中で一人ひとりの自己実現に向かって努力する姿は、市民が生き生きと生活する元気な東広島市の原動力となり、これからの生涯学習の推進に大いに貢献してい

		<p>会 場：中央公民館大ホール  演 目：新・龍王山物語～西条編  来場者：昼の部：442 人/夜の部：126 人  黒瀬会場（第 10 回）  会 場：黒瀬文化センターアザレアホール  演 目：新・龍王山物語～黒瀬編  来場者：昼の部：360 人/夜の部：122 人  豊栄会場（第 6 回）  会 場：豊栄文化センターアゼイリアホール  演 目：板鍋山の弥助  来場者：昼の部：223 人/夜の部：156 人</p>	<p>る。</p> <p>昨今の財政事情による全市的な補助金制度の見直しが行われている中、今後、自立して事業が運営できるよう、当団体へ中・長期的なビジョン策定について指導・助言が必要とされる。</p> <p>特定の地域や参加者に偏らない市全体のイベントとしての位置づけ、開演上、大規模な施設を有した特定の地域に限らず、市内全域に整備されている公民館等の小規模施設を活用した活動も促進する。</p>
--	--	---	--